



## 2020年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年7月31日

上場会社名 前田工織株式会社  
 コード番号 7821 URL <http://www.maedakosen.jp/mdk>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 前田 征利

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 (氏名) 斉藤 康雄

TEL 0776-51-3535

四半期報告書提出予定日 2020年7月31日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年9月期第3四半期の連結業績(2019年9月21日～2020年6月20日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期第3四半期	30,837	9.5	3,743	6.9	3,852	5.0	2,561	17.9
2019年9月期第3四半期	28,168	8.9	4,020	5.0	4,054	4.4	3,119	11.9

(注) 包括利益 2020年9月期第3四半期 2,487百万円 (18.4%) 2019年9月期第3四半期 3,049百万円 (11.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期第3四半期	81.41	74.69
2019年9月期第3四半期	97.45	95.36

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年9月期第3四半期	58,684	33,036	56.1
2019年9月期	54,021	31,152	57.5

(参考) 自己資本 2020年9月期第3四半期 32,948百万円 2019年9月期 31,059百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年9月期		9.00		11.00	20.00
2020年9月期		10.00			
2020年9月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年9月期の連結業績予想(2019年9月21日～2020年9月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,300	6.5	4,500	15.8	4,500	16.5	3,300	18.7	104.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年9月期3Q	32,260,200 株	2019年9月期	32,260,200 株
期末自己株式数	2020年9月期3Q	779,434 株	2019年9月期	808,192 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年9月期3Q	31,466,707 株	2019年9月期3Q	32,014,209 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、期初からの堅調な企業業績を背景に、雇用・所得環境の改善や設備投資の増加が見られ、緩やかな回復基調が続いておりましたが、一転して、新型コロナウイルス感染症の影響により、企業業績の急速な悪化が顕在化するなど、国内外の経済活動への影響が広がっており、景気の先行きは不透明感が増しております。

このような状況のなか、当社グループでは、企業メッセージとして「前田工織は混ぜる会社です」を掲げております。このメッセージには、当社グループが持続的成長を遂げるための強い思いを込めており、グループの持つあらゆる経営資源を有機的に「混ぜる」ことで、成長戦略である「M&A」、「人材育成」、「海外事業」を積極的に推進するための原動力になると考えております。

まず、成長戦略の柱と位置付けるM&A戦略においては、事業の多角化をさらに進めるとともに、M&Aにより国内外の地方企業の活性化と地方創生に貢献してまいります。また、当社グループがこれまで培ってきた繊維・樹脂の加工技術に捉われず、異分野がもつ様々な技術やノウハウを「混ぜる」ことで、新製品や新技術を創出してまいります。

人材育成においては、グループ社員全員を戦力化するほか、多様な人材を採用・育成し、それらの能力・経験から生まれる人的資源を「混ぜる」ことで、イノベティブな組織風土を築いてまいります。なお、当社グループでは、「従業員の健康が会社の未来を決める」との考え方のもと、すべての従業員の健康に深く関わっていくことを決意し、「健康宣言」を行い、健康で働きがいのある職場づくりに向けた様々な施策に取り組んでおります。

海外事業においては、海外の生産拠点を拡充するとともに、外国籍企業との業務提携等を通じて国内外の技術や販売ネットワークを活用することで、当社グループ製品の市場拡大を目指してまいります。

当第3四半期連結累計期間の売上高は30,837百万円（前年同期比9.5%増）となりました。利益面におきましては、営業利益は3,743百万円（同6.9%減）、経常利益は3,852百万円（同5.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,561百万円（同17.9%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### (ソーシャルインフラ事業)

当社の公共工事業においては、盛土補強材や排水材、斜面防災製品、森林保全製品等の売上が順調に推移いたしました。また、営業利益は、売上高に伴う利益増加に加えて、原価低減や運賃等上昇分の販売価格への転嫁により、前年同期を大きく上回る結果となりました。不織布関連の製品においては、期初から売上が伸び悩んだスパンポンド（連続長繊維不織布）について、新型コロナウイルス感染症対策関連製品の需要拡大により受注が回復した結果、売上は前年同期と同水準となりました。また、営業利益は、原価低減や一部粗利率の高い製品の取り扱い増加により、前年同期を上回る結果となりました。なお、河川護岸材では、護岸や橋脚の根固め工に用いる蛇籠において、ネット材に自立形状を保持できるだけの剛性と折り曲げ加工が可能な折線部を備えたふとん籠（角型蛇籠）

「FIT-CUBE」を上市いたしました。このふとん籠は、吊上げ可能な剛性を備えているため、敷設時の出来形がよく、また、重機を用いた砕石の中詰めができるため、製作時間の短縮が可能となります。さらに、素材も鉄ではなく化学繊維であるため錆びることはありません。今後も、護岸や水制、災害復旧に向けた技術開発を進め、高付加価値な製品・工法を積極的に提供してまいります。

獣害対策製品、園芸用ハウス、農業資材を取り扱う子会社の未来のグリ株式会社においては、園芸用ハウスの受注が伸び悩んだことにより、売上は前年同期を下回る結果となりました。営業利益は、獣害対策製品においてCSF（豚熱）対策の防護柵の受注が増加したことや低粗利率製品の取り扱い減少により、前年同期を上回る結果となりました。また、天幕や帆布生地製品を取り扱う子会社の未来テクノ株式会社では、防衛省向け製品の売上が回復したほか、海洋土木製品の生産量が堅調に推移したため、売上は前年同期と同水準となりました。営業利益は、原価低減や値上げによる採算改善により、前年同期を上回る結果となりました。なお、フィッシュミール及び魚油の製造・販売を行う株式会社鉋路ハイミールは、売上・利益とも計画に対して好調に推移いたしました。同社につきましては、2018年10月29日付で子会社化しており、前第2四半期連結累計期間より業績に含めております。

海外子会社であるMAEDA KOSEN VIETNAM CO., LTD.においては、取扱製品の拡充により売上・利益ともに伸長しました。同社では、第3、第4工場の稼働による生産拡充を活かして、当社グループ製品のアジア地域における販路拡大に努めております。また、台湾のGOLD-JOINT INDUSTRY CO., LTD.との業務提携を有効活用することで、海外販売網の拡大を図っております。なお、当社では、2020年5月に、ドイツに本社を置くHUESKER Synthetic GmbH及び同社の関連会社でシンガポールに本社を置くHUESKER Asia Pacific Pte Ltd.との間において、アジア地域における販売提携を行うことに合意いたしました。ドイツナンバーワンのジオシンセティックスメーカーであるヒューズカー社と当社双方の販売網と営業提案力を活用し、新たな市場開拓を実現してまいります。

当事業の売上高は20,710百万円（前年同期比21.6%増）、営業利益は3,990百万円（同47.7%増）となりました。

## (インダストリーインフラ事業)

インダストリーインフラ事業では、精密機器製造用ワイピングクロス、衣料・各種産業資材用の丸編製品を製造・加工・販売する子会社の未来コーセン株式会社において、半導体向け製品の需要が回復傾向にあるものの上期で販売が伸びず、また、新型コロナウイルス感染症の影響により衣料向け受託製品が低迷した結果、売上・利益とも前年同期を下回りました。

当事業の売上高は1,539百万円（前年同期比5.4%減）、営業利益は226百万円（同1.5%減）となりました。

## (ヒューマンインフラ事業)

ヒューマンインフラ事業では、アルミ鍛造ホイールを製造・販売する子会社のBBSジャパン株式会社において、海外の自動車メーカー向けOEM供給が好調に推移したものの、足元では新型コロナウイルス感染症の影響により世界の自動車生産台数の減少が顕在化するほか、同社のドイツ子会社BBS Motorsport GmbHにおいて、OEM採用車種の入替え調整時期により業績が伸び悩んだ結果、売上は前年同期を下回る結果となりました。また、営業利益は、新規設備や新工場の本格稼働に向けた人件費や、減価償却費の増加により、前年同期を大幅に下回る結果となりました。

当事業の売上高は8,587百万円（前年同期比9.7%減）、営業利益は502百万円（同73.3%減）となりました。

## (その他の事業)

その他の事業では、子会社のMDKメディカル株式会社が医療機器の治験に向けて本格的に準備を開始したことで、営業損失は161百万円となりました。なお、当事業は前第4四半期連結累計期間より業績に含めているため、前年同期比較は行っておりません。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べて4,663百万円増加し、58,684百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末と比べて1,025百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が884百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が815百万円、流動資産のその他が967百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末と比べて3,637百万円増加いたしました。これは主に、有形固定資産が3,705百万円増加したことによるものであります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて2,780百万円増加し、25,648百万円となりました。流動負債は、前連結会計年度末と比べて127百万円減少いたしました。これは主に、賞与引当金が510百万円、流動負債のその他が350百万円それぞれ増加したものの、1年内返済予定の長期借入金が1,101百万円減少したことによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末と比べて2,907百万円増加いたしました。これは主に、リース債務が2,935百万円増加したことによるものであります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1,883百万円増加し、33,036百万円となりました。これは主に、利益剰余金が1,886百万円増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年11月1日の決算短信で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,412,324	9,527,700
受取手形及び売掛金	8,450,798	9,266,194
電子記録債権	2,617,741	2,873,495
商品及び製品	3,844,862	3,512,862
仕掛品	1,215,510	1,418,055
原材料及び貯蔵品	2,254,255	2,255,221
その他	614,850	1,582,602
貸倒引当金	△2,608	△2,545
流動資産合計	29,407,734	30,433,587
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,095,909	10,953,689
減価償却累計額	△4,521,767	△4,737,169
建物及び構築物（純額）	3,574,141	6,216,519
機械装置及び運搬具	10,845,026	16,081,452
減価償却累計額	△7,611,051	△8,543,865
機械装置及び運搬具（純額）	3,233,974	7,537,587
土地	3,896,763	4,054,963
建設仮勘定	7,061,226	671,180
その他	2,631,032	5,884,215
減価償却累計額	△2,277,147	△2,539,045
その他（純額）	353,885	3,345,169
有形固定資産合計	18,119,991	21,825,420
無形固定資産		
のれん	303,427	133,263
ソフトウェア	119,357	122,712
ソフトウェア仮勘定	5,292	5,557
商標権	701,674	664,952
技術資産	163,416	135,666
その他	500,820	485,997
無形固定資産合計	1,793,988	1,548,150
投資その他の資産		
投資有価証券	3,452,034	3,514,095
繰延税金資産	601,978	783,157
その他	645,577	580,092
貸倒引当金	△136	△136
投資その他の資産合計	4,699,454	4,877,209
固定資産合計	24,613,435	28,250,781
資産合計	54,021,169	58,684,368

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年9月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月20日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,373,179	1,124,759
電子記録債務	2,071,986	2,388,571
1年内償還予定の社債	76,000	28,000
1年内返済予定の長期借入金	1,246,424	145,004
未払金	2,054,347	2,026,298
リース債務	-	318,307
未払法人税等	919,978	799,706
賞与引当金	429,738	939,833
契約損失引当金	97,984	-
設備関係支払手形	60,012	81,279
その他	273,032	623,351
流動負債合計	8,602,683	8,475,111
固定負債		
社債	28,000	-
新株予約権付社債	12,055,000	12,046,000
長期借入金	266,650	251,647
長期未払金	614,458	613,961
リース債務	-	2,935,633
繰延税金負債	173,225	178,104
役員退職慰労引当金	51,090	22,601
退職給付に係る負債	1,031,032	1,078,134
その他	46,055	47,055
固定負債合計	14,265,511	17,173,137
負債合計	22,868,194	25,648,249
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,472,349	3,472,349
資本剰余金	3,431,977	3,431,977
利益剰余金	26,352,154	28,239,150
自己株式	△2,001,135	△1,924,963
株主資本合計	31,255,346	33,218,514
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△44,174	△74,747
繰延ヘッジ損益	673	-
為替換算調整勘定	△152,827	△199,655
退職給付に係る調整累計額	368	4,019
その他の包括利益累計額合計	△195,960	△270,384
新株予約権	93,589	87,989
純資産合計	31,152,975	33,036,119
負債純資産合計	54,021,169	58,684,368

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年9月21日 至 2019年6月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年9月21日 至 2020年6月20日)
売上高	28,168,664	30,837,273
売上原価	17,623,799	19,982,909
売上総利益	10,544,865	10,854,364
販売費及び一般管理費	6,524,516	7,110,829
営業利益	4,020,348	3,743,534
営業外収益		
受取利息	2,397	259
有価証券利息	2,000	9,000
受取配当金	4,888	5,012
受取保険金	91,642	88,396
保険解約返戻金	22,213	53,074
固定資産売却益	3,330	3,528
受贈益	41,525	-
その他	51,586	33,427
営業外収益合計	219,583	192,700
営業外費用		
支払利息	6,751	16,957
社債発行費	44,833	-
為替差損	23,722	8,054
固定資産除却損	35,980	15,066
災害による損失	19,413	-
補修費用	49,617	34,810
その他	5,291	9,008
営業外費用合計	185,609	83,897
経常利益	4,054,322	3,852,337
特別利益		
負ののれん発生益	213,470	-
特別利益合計	213,470	-
特別損失		
投資有価証券評価損	-	36,359
契約損失引当金繰入額	25,592	-
特別損失合計	25,592	36,359
税金等調整前四半期純利益	4,242,201	3,815,978
法人税、住民税及び事業税	1,188,875	1,416,429
法人税等調整額	△66,577	△162,308
法人税等合計	1,122,297	1,254,120
四半期純利益	3,119,903	2,561,857
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,119,903	2,561,857



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年9月21日 至 2019年6月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年9月21日 至 2020年6月20日)
四半期純利益	3,119,903	2,561,857
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△63,021	△30,572
繰延ヘッジ損益	△1,191	△673
為替換算調整勘定	△12,958	△46,827
退職給付に係る調整額	6,464	3,650
その他の包括利益合計	△70,707	△74,423
四半期包括利益	3,049,196	2,487,434
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,049,196	2,487,434

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用している在外連結子会社は、第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過措置として認められている本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の有形固定資産の「その他(純額)」が254,833千円、流動負債の「リース債務」が21,848千円及び固定負債の「リース債務」が233,127千円増加しております。なお、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年9月21日 至 2019年6月20日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ソーシャル インフラ事業	インダストリー インフラ事業	ヒューマン インフラ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	17,033,131	1,627,267	9,508,265	28,168,664	—	28,168,664
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,109	749	—	3,859	△3,859	—
計	17,036,241	1,628,016	9,508,265	28,172,524	△3,859	28,168,664
セグメント利益	2,701,390	230,148	1,883,506	4,815,044	△794,696	4,020,348

(注) 1. セグメント利益の調整額△794,696千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。なお、全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年9月21日 至 2020年6月20日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ソーシャル インフラ 事業	インダ ストリー インフラ 事業	ヒューマン インフラ 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	20,710,092	1,539,734	8,587,447	30,837,273	—	30,837,273	—	30,837,273
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	17,899	993	—	18,892	—	18,892	△18,892	—
計	20,727,991	1,540,727	8,587,447	30,856,166	—	30,856,166	△18,892	30,837,273
セグメント 利益又は損失 (△)	3,990,565	226,613	502,245	4,719,424	△161,576	4,557,847	△814,313	3,743,534

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ヘルスケア事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△814,313千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。なお、全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。